

2022年度事業報告書

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月31日

目 次

1. 概況報告	1
2. 定時総会、理事会の開催に関する事業	1
1) 2022年度定時総会の開催	1
2) 理事会の開催	1
3. 委員会の開催に関する事業	2
1) JAPAN PACK 2023 実行委員会	2
2) 包装学校企画運営委員会	4
3) 広報推進委員会	5
4) ISO/TC313国内審議委員会	7
5) 技術委員会	8
6) IOT WG	10
4. 会員等諸会合の開催	11
1) 新年賀詞交歓会	11
2) 歳末特別講演会	11
3) 支部会の開催	11
5. 調査、各種情報事業等に関する事業	12
1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査	12
2) 技術情報の収集・提供等	12
3) 各種情報の発信等	12
6. 人材育成、セミナー・講習会に関する事業	13
1) 包装学校事業	13
2) 青年部会	13
3) 各種セミナー・講習会	15
7. 国の施策に関する事業	15
1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業	15
8. その他関連事業	15
1) 包装機械会館の運営に関する事業	15
2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業	15
3) 福利厚生に関する事業	16
4) 関連産業との連携	16
9. 会員の現況	16
1) 入 会	16
2) 退 会	16
3) 会員登録の変更（カッコ内は旧登録名）	16

1. 概況報告

わが国包装機械産業の2021年度の生産実績は4,269億円で、対前年度比0.9%減となった。一方、2022年度は、徐々に社会経済活動も正常化に向け動き始めたが、物価上昇をはじめ上海のロックダウンの影響等もあり、部品等が不足し、生産が一時停止するなど、以前厳しい状況が続いている。貿易統計（財務省）によれば、輸出高は15.3%増（1-12月確報）と好調に推移している一方で、国内の設備投資の落ち込みが依然継続しており、機械統計（経済産業省）は暦年ベースで0.5%減（1-12月確報）となり、生産高は前年度を下回る見込みとなっている。

本年度は、新型コロナウイルスの感染再拡大の影響もあり、各事業の開催方法の変更もあったが、概ね事業計画に基づき、会員サービスの向上、ならびに安定的な運営基盤の構築、業界の発展と工業会の体制強化に努めた。

2. 定時総会、理事会の開催に関する事業

1) 2022年度定時総会の開催

事業計画ならびに定款の規程に基づき、2021年度事業報告案の審議・承認、2022年度事業計画の報告を行った。本年は任期満了に伴う役員の変更について審議・承認された。また懇親会を開催し、会員の親睦を図るとともに情報交換を行った。

※2022年度定時総会

月 日：2022年5月26日（木）
会 場：鉄鋼会館 701号室（東京都中央区）
出席者：103名（委任状による出席も含む）

2) 理事会の開催

事業計画ならびに定款の規程に基づき、5月、9月、12月、3月に計5回理事会を開催し、本年度事業の進捗状況の確認、各議案の審議・承認、役員の実務執行状況等の報告を行い、本会事業の円滑な推進に努めた。

※第357回理事会

月 日：2022年5月26日（木）
会 場：鉄鋼会館 704号室（東京都中央区）
内 容：2022年度定時総会上程議案の確認／2022年度事業計画案・収支予算案の承認／役員各委員会の役割の確認／報告事項／経済産業省ご挨拶及び施策説明

※第358回理事会

月 日：2022年5月26日（木）
会 場：鉄鋼会館 701号室（東京都中央区）
内 容：会長の選出に関する件／役付理事の選任に関する件

※第359回理事会

月 日：2022年9月14日（水）
会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）／オンライン

内 容：新規入会に関する件／副会長選定に関する件／報告事項

※第360回理事会

月 日：2022年12月1日（木）

会 場：びわ湖大津プリンスホテル 1階 叡山薫（滋賀県大津市）

内 容：新規入会に関する件／報告事項／最近の業況に関する意見交換

※第361回理事会

月 日：2023年3月14日（火）

会 場：包装機械会館 会議室（東京都中央区）／オンライン

内 容：来期役員交代に関する件／新規入会の承認／2022年度事業報告書（案）／2022年度決算報告書（案）／2023年度事業計画（案）／
役員各委員会の体制に関する件／報告事項

3. 委員会の開催に関する事業

事業計画に基づき、JAPAN PACK 実行委員会、包装学校企画運営委員会、広報推進委員会、ISO/TC313国内審議委員会、技術委員会、IOTWGを逐次開催し、本年度事業の円滑な推進に努めた。

1) JAPAN PACK 2023 実行委員会

JAPAN PACK 2023実行委員会（委員長：古川 雅章氏 株式会社古川製作所社長）は、国内外の包装機械、包装資材、包装材料加工機械、食品加工機械、医薬・化粧品製造機械、物流機器および関連機器の新製品を展示公開し、産業の合理化と国民生活の向上に寄与するとともに貿易の振興を図り、関係業界の発展に資することを目的として、2023年10月3日（火）から6日（金）までの4日間、東京ビッグサイト東展示棟2～6ホールにおいて「JAPAN PACK 2023 日本包装産業展」を開催するため、下記の通り委員会活動を推進した。

過去2回展（2019年展、2022年展）においては新型コロナウイルス感染症拡大および東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催延期等に伴い会場および会期も変則であったが、今回は2017年展以来、3回展ぶりに東京ビッグサイト東展示棟に戻り、例年通り10月開催の運びとなる。

『未来への包程式 -当たり前その先へ-』をメインテーマに掲げ、包装機械・包装資材を中心に、生産から流通・消費・廃棄・再生に至るまでの様々なソリューションを『包程式』として展示公開することにより、サプライチェーンにおける自動化や効率化、そして持続可能な社会の実現へ向けて、“包装”がこれまで以上に必要不可欠な要素であることを発信する。

「自動化」ならびに「環境」をキーワードとした特別展示、講演会・専門セミナー、会場巡回ツアーなどの多彩な主催者企画や関連団体とのコラボレーション企画の実施により周辺業界における喫緊の課題とその解決策の話題をクローズアップし、会場内での活発な商談を企図。さらに、積極的な広報活動による来場誘致の推進はもとより、公式ウェブサイト内にオンラインコンテンツを掲載した「WEBブース」を全出展者に用意し、見込み顧客獲得へ向けた会期前からの事前アプローチも支援する。

※第1回正副実行委員長会議

月 日：2022年4月11日（月）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：実行委員構成案、全体スケジュール案、開催指針案、オンライン展方案等
について討議

※第2回正副実行委員長会議

月 日：2022年5月13日（金）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：開催指針案、キャッチコピー案、収支予測案、出展勧誘アプローチ等につ
いて討議

※第3回正副実行委員長会議

月 日：2022年6月30日（木）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：実行委員会構成および分野別プロモーション、開催概要説明会計画、主要
協力会社選定、キービジュアル・出展案内資料等について討議

※第1回実行委員会

月 日：2022年6月30日（木）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：実行委員会構成、開催指針および主要活動計画案、主な課題ポイント、環境・
自動化ソリューション展示企画案、出展勧誘アプローチ等について討議

※第4回正副実行委員長会議

月 日：2022年8月3日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：主要協力会社選定、キービジュアルポスター、出展案内、自動化・環境ソ
リューション企画案等について討議

※開催説明会

月 日：2022年9月13日（火）

会 場：オンライン

内 容：主催者挨拶、開催要旨説明、質疑応答

併 催：展示会活用セミナー

主題：過去最高の出展成果を出すブース計画手法とは？

来場者心理から考える「6つのポイント」

講師：竹村 尚久 氏

SUPER PENGUIN株式会社 代表取締役社長

展示会プロデューサー / デザイナー

※第5回正副実行委員長会議

月 日：2022年9月20日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：キービジュアル、出展案内、自動化・環境ソリューション企画案、
出展勧誘・来場誘致アプローチ等について討議

※第2回実行委員会

月 日：2022年9月20日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：キービジュアル、出展案内、自動化・環境ソリューション企画案、
出展勧誘・来場誘致アプローチ等について討議

※第6回正副実行委員長会議

月 日：2022年11月14日（月）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：出展申込み状況、主要協力会社選定、出展勧誘・来場誘致、
自動化・環境関連企画案等について討議

※第7回正副実行委員長会議

月 日：2023年2月13日（月）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：出展申込み状況、直近および開催準備期間の主要会合計画案、
併催行事および会場計画案、来場誘致計画案等について討議

※第8回正副実行委員長会議

月 日：2023年3月22日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）

内 容：出展申込み状況、直近および開催準備期間の主要会合計画案、
併催行事および会場計画案、来場誘致計画案等について討議

2) 包装学校企画運営委員会

包装学校企画運営委員会（委員長：一岡 幹朗氏 大森機械工業株式会社 取締役）は、
本年6月から開講の第49期包装学校ならびに来期包装学校の開講準備にあたり、下記
の委員会活動を推進した。

※第111回包装学校企画運営委員会

月 日：2022年5月31日（火）

場 所：包装機械会館2F会議室及びオンライン

内 容：第49期開講式・オリエンテーションについて

※第112回包装学校企画運営委員会

月 日：2022年9月6日（火）

場 所：馬事畜産会館2F会議室及びオンライン

内 容：第50期包装学校について

※第113回包装学校企画運営委員会

月 日：2022年11月28日（月）

場 所：包装機械会館2F会議室及びオンライン

内 容：第50期包装学校カリキュラムの決定

※第114回包装学校企画運営委員会

月 日：2023年2月7日（火）

場 所：包装機械会館2F会議室及びオンライン

内 容：第49期ディベートディスカッション・修了式について

3) 広報推進委員会

広報推進委員会（委員長：下島 敏章 氏 ストラパック株式会社 社長）は、関連業界等と連携強化を図りながら以下の委員会活動を推進し、国内外に向けてジャパンプランドを広くアピールすることにより、当工業会ならびに会員企業ひいては関連業界各位の価値向上に繋がるための活動に努めた。

※第22回広報推進委員会

月 日：2022年5月10日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：JAPAN PACK 2022連携事業、包装業界合同企業説明会、パッケージ&マシン通信等事業報告および計画案について討議

※Propak Asia 2022日本パビリオン

月 日：2022年6月15日（水）～15日（土）

会 場：BITEC（タイ・バンコク市）

内 容：大森機械工業株式会社、ニッカ電測株式会社、ニッポーパック株式会社、株式会社古川製作所、大和製衡株式会社、レオン自動機株式会社、レフォルモ株式会社、一般社団法人日本包装機械工業会、以上8社・団体（258㎡）参画

※日本包装機械工業会セミナー『パッケージIoT化によるサプライチェーン変革』

月 日：2022年6月22日（水）

会 場：オンライン

講 師：唐澤 憲治 氏

大日本印刷株式会社 Lifeデザイン事業部

I PCビジネスデザイン本部 第2部 第2グループ エキスパート

※第23回広報推進委員会

月 日：2022年8月2日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：各種事業報告および日本包装機械工業会セミナー企画案、第79次PAC K EXPO International 視察団計画案、四国化工機本社工場・阿南食品工場見学会企画案、国際粉体工業展東京2022主催者セミナー企画案、包装業界合同企業説明会参画企業募集案、interpack 2023 視察団企画案、JAPAN PACK 2023 連携企画案について討議

※日本包装機械工業会セミナー『食品ロスの更なる削減に向けて』

月 日：2022年9月6日（火）

会 場：オンライン

主 題：①スキンパック包装と求められるフィルム特性
②食品ロス削減に向けた取り組み
～バリアスキンパック包装による鮮度保持効果～

講 師：①向井 健太 氏
三井・ダウ ポリケミカル株式会社 営業部 包材グループ
②大槻 彰良 氏
住友ベークライト株式会社 フィルム・シート研究所 研究部 主査

※第79次 PACK EXPO International 2022 視察団

月 日：2022年10月22日（土）～27日（木）

会 場：McCormick Place（米国イリノイ州シカゴ）

内 容：SMC株式会社、カナエエンジニアリング株式会社、
ストラパック株式会社、静甲株式会社、ゼネラルパッカー株式会社、
株式会社古川製作所。レンゴー株式会社、オーマイ、株式会社ニップン、
P a s t a M o n t a n a L . L . C、以上10社／23名参画

※四国化工機株式会社 本社工場・阿南食品工場見学会

月 日：2022年11月10日（木）

会 場：①四国化工機株式会社 本社工場（徳島県板野郡）

②同社阿南食品工場（徳島県阿南市）

AI技術を活用した最新鋭の豆腐生産工場見学及び意見交換

※第24回広報推進委員会

月 日：2022年11月22日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：各種事業報告および国際粉体工業展東京2022主催者セミナー企画案、
包装業界合同企業説明会企画案、i n t e r p a c k 2 0 2 3 視察団企画
案、J A P A N P A C K 2 0 2 3 連携企画案について討議

※国際粉体工業展東京2022最新情報フォーラム「包装のトレンドと粉体包装」

月 日：2022年12月7日（水）

会 場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

主 題：①環境配慮包装の最近のトレンド ～食品包装を含めて～
②粉体包装の難しさ

講 師：①松田 修成 氏
株式会社東洋紡パッケージング・プラン・サービス シニアアドバイザー
②豊吉 正則 氏
ゼネラルパッカー株式会社 開発部 次長

※2022年度「包装業界合同企業説明会」

月 日：2023年1月31日（火）

※アーカイブ配信：2023年2月8日（水）～

会 場：秋葉原UDX（東京都千代田区）

内 容：包装業界ガイダンス、企業ショートPR、企業プレゼン、企業説明

カタログコーナー・包装サンプルコーナーの設置、スタンプラリーの実施
参加社：イーデーエム株式会社、株式会社オーエム機械、大森機械工業株式会社、
株式会社カジワラ、株式会社ケーテー製作所、
株式会社シンク・ラボラトリー、ストラパック株式会社、静甲株式会社、
ゼネラルパッカー株式会社、株式会社東京自働機械製作所、
日新電子工業株式会社、日本ポリスター株式会社、PACRAFT株式会社、
株式会社フジキカイ、以上14社参画
参加者：学生39名、メディア2名、関係者3名

※第25回広報推進委員会

月 日：2023年2月14日（火）
会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン
内 容：各種事業報告およびJAPAN PACK 2023連携企画案等2023
年度事業計画について討議

※ウェブ版機関誌『パッケージ&マシン通信』発行（原則月2回）

体 裁：A4版／PDF形式
配 信：登録者へEメール配信
内 容：当会ウェブ機関誌『パッケージ&マシン通信』を毎月2回発行し、わが国
の包装機械、関連機器、包装資材等の新製品・新技術情報や当会事業活
動、国の施策や機械統計（経済産業省）、貿易統計（財務省）等情報の包
装機械業界およびユーザー業界への周知・広報を推進

4) ISO/TC313国内審議委員会

ISO/TC313国内審議委員会(委員長:福田 隆文氏 長岡技術科学大学教授(シ
ステム安全専攻))は、昨年度に引き続き、イタリアから提案された包装機械におけるE
N415規格のISO化(ISO/TC313)に伴い、国内審議委員会活動及び国際
会議への参加を実施した。

※ISO/TC313/WG1国際会議

月 日：2022年6月28日(火)～30日(木)
会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン
内 容：N文書コメントに対する各国の審議・承認

※ISO/TC313/WG1国際会議

月 日：2022年7月26日(火)～27日(水)
会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン
内 容：N文書コメントに対する各国の審議・承認

※ISO国際会議対応委員会

月 日：2022年10月26日(水)
会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン会議
内 容：N文書確認及び今後計画

※ISO/TC313国際会議(全体会議)

月 日：2022年11月3日（木）
会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン
内 容：N文書改訂に対する各国の審議・承認

※ISO国際会議対応委員会

月 日：2022年11月21日（月）
会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン会議
内 容：全体会議検討

※ISO国内審議委員会

月 日：2022年12月13日（火）
会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン
内 容：ISO/TC313/WG1延長及び次回全体会議の報告

※ISO/TC313国際会議（全体会議）

月 日：2023年1月16日（月）
会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン会議
内 容：ISO/TC313コンセンサスに対する各国の合意

※ISO国際会議対応委員会

月 日：2023年3月3日（金）
会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン会議
内 容：N75に対するコメント検討

※ISO/TC313/WG1国際会議

月 日：2023年3月7日（火）～9日（木）
会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン会議
内 容：N75文書コメントに対する各国の審議・承認

5) 技術委員会

技術委員会（委員長：伊早坂 嗣氏 株式会社川島製作所社長）は、技術事業のあり方を検討し、技術センターの事業方針を決定した上で、包装機械を取巻く環境変化への対応や産学・産産連携、工場見学等を計画し実施した。

※2022年度第1回技術委員会

月 日：2022年5月17日（火）
会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン
内 容：①（一社）日本食品機械工業会IoT推進委員会について
②今年度事業方針、目標について
③その他報告事項

※2022年度第2回技術委員会

月 日：2022年7月12日（火）
会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン
内 容：①包材系テーマについて
②標準化テーマについて

③ISO審議状況報告

④SMC社工場訪問

※SMC(株) 下妻見学会及び意見交換会

月 日：2022年10月19日(水)

会 場：SMC(株) 下妻工場(茨城県下妻市)

内 容：下妻第一及び第二工場見学会及び意見交換会

① 技術委員会、IOT研究会関係者合計10名参加

② 下妻工場のご紹介

③ 第一工場、第二工場、チラー試験所見学

④ 包装・梱包の技術交流会

⑤ 無線システムの紹介

⑥ 意見交換会

※環境関連セミナー開催及び意見交換会

月 日：2022年11月8日(火)

会 場：包装機械会館2階会議室

講 師：丸東産業株式会社

内 容：環境配慮包材について

① SDGsとESG

② プラスチックをめぐる日本政府の取り組みについて

③ 大手流通各社の取り組み

④ ラミネートフィルムにおける主な環境対応

⑤ マスバランス方式について

⑥ 機能包材について

⑦ まとめ

⑧ 意見交換会

※2022年度第3回技術委員会

月 日：2022年11月8日(火)

会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン

内 容：①クオリティーAIチェッカー特許公開報告

②包材系セミナーの概要発信(P&M通信)

③標準化テーマWG審議報告

④ISO審議状況報告

④SMC社工場訪問報告

※2022年度第4回技術委員会

月 日：2023年3月2日(木)

会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン

内 容：①ISO審議委員会報告

②IOTWG報告

③次年度活動計画の審議検討

④事業計画案の承認

6) IOT WG

包装機械類標準仕様の検討となる IOT 導入・活用の「指針」をまとめ、周知することにより包装機械業会及びユーザー業界双方の生産性向上に寄与する。その具体的な内容を検討する専門家会議として、本 WG（リーダー：福井 健二氏 大森機械工業株式会社 上級執行役員）を発足した。

※第1回 IOT WG ミーティング

月 日：2022年8月8日（月）

会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン

内 容：キックオフミーティング

※第2回 IOT WG ミーティング

月 日：2022年9月5日（月）

会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン

内 容：グループ名、具体的検討項目、活動計画

※第3回 IOT WG ミーティング

月 日：2022年10月3日（月）

会 場：包装機械会館 2F会議室

内 容：検討案説明・データ表検討

※味の素食品株式会社様 IOT検討会

月 日：2022年10月14日（金）

会 場：味の素食品(株)川崎工場（川崎市）

内 容：IOT意見交換

※SMC株式会社下妻工場見学

月 日：2022年10月19日（水）

会 場：SMC(株)下妻工場（下妻市）

内 容：工場見学、技術交流会、無線システム紹介

※第4回 IOT WG ミーティング

月 日：2022年11月4日（金）

会 場：包装機械会館 1F会議室

内 容：ゴール（方向性）再認識、成果物検討

※第5回 IOT WG ミーティング

月 日：2022年12月6日（火）

会 場：包装機械会館 2F会議室及びオンライン

内 容：データ：カテゴリー検討

※第6回 IOT WG ミーティング

月 日：2023年1月17日（火）

会 場：包装機械会館 1F会議室及びオンライン

内 容：データ表検討

※第7回 IOT WG ミーティング

月 日：2023年2月15日（水）
会 場：NATULUCK茅場町新館 3階大会議室
内 容：データ表検討、カテゴリー分け整理

※第8回 IOT WG ミーティング

月 日：2023年3月15日（水）
会 場：包装機械会館 2F会議室
内 容：データ表検討、カテゴリー分け整理 2023年期概要スケジュール

4. 会員等諸会合の開催

2022年度事業計画に基づき、総会、理事会、歳末特別講演会、新年賀詞交歓会、支部会の開催を進めたが、運営方法の変更、規模を縮小して開催した。

1) 新年賀詞交歓会

関係官公庁、当会会員、金融関係の方々をお招きして、当会と株式会社日本包装リース合同主催の2023年新年賀詞交歓会を開催した。この度は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、規模の縮小、感染症対策を徹底の上、約3年ぶりに食事を提供の上開催した。

月 日：2023年1月10日（火）
会 場：パレスホテル東京 4階「山吹」
出席者：207名

2) 歳末特別講演会

事業計画に基づき、2022年度歳末特別講演会を約3年ぶりに実開催した。

※2022年度歳末特別講演会

月 日：2022年11月30日（水）
会 場：大津プリンスホテル（滋賀県大津市）
テーマ：世界食糧危機－重層化するリスクにどう立ち向かうか－
講 師：株式会社農林中金総合研究所
理事研究員 阮 蔚 氏
出席者：42名

※工場見学会

月 日：2022年12月1日（木）
場 所：兵神装備株式会社 滋賀事業所（滋賀県長浜市）
参加者：16名

3) 支部会の開催

事業計画に基づき、当会事業の周知と会員間の情報交換・親睦等を目的として東日本支部、西日本支部を約3年ぶりに実開催した。2023年度事業計画案の報告ならびに講師をお招きして講演会を開催した。

※東日本支部会

月 日：2023年3月7日（火）

会 場：包装機械会館 2階会議室

内 容：事業報告及び事業計画案等について／経済産業省の施策概要について

講演会：包装産業における国内外の環境対応について

講 師：株式会社東洋紡 P P S シニアアドバイザー 松田 修成氏

出席者：29名

※西日本支部会

月 日：2023年3月10日（金）

会 場：AP大阪駅前・Aルーム（大阪市北区）

内 容：工業会の事業報告及び事業計画案等について／経済産業省の2022年施策概要について

講演会：包装産業における国内外の環境対応について

講 師：株式会社東洋紡 P P S シニアアドバイザー 松田 修成氏

出席者：21名

5. 調査、各種情報事業等に関する事業

包装機械・関連機器に関する国内外の市場調査をはじめ、技術情報や関連規格等の情報を調査・収集し、パッケージ&マシン通信・ウェブサイト・メール等を通じ、広く一般に公開し、わが国包装機械産業・関連機器産業の技術高度化ならびに需要業界の包装合理化に資することを目的として、本年度は次の事業を推進した。

1) 包装・荷造機械生産高・輸出入高の調査

わが国の包装機械メーカー約420社に対して、2021年度の生産高と輸出入高ならびに2022年度の生産計画に係るアンケート調査を実施した。

調査結果については「包装機械及び荷造機械生産高・輸出入高統計資料」としてまとめ、会員企業をはじめ広く一般に頒布・公開した。

2) 技術情報の収集・提供等

(1) 技術センター事業

技術センターの事業として、包装機械ならびに関連機器に関する国内外のユーザー等からの各種技術相談の受付・回答、製品引き合いに対する会員企業等への斡旋事業を推進すると共に会員企業からの技術開発の向上に関する相談の推進に努めた。

また、機械安全・CEマーキング等の相談に対応した。安全・衛生指導事業は今後も継続する。

(2) 警告マークの頒布

機械のオペレーターや保守担当者に危険個所を適切に表示・告知する「警告マーク」（日本語版）を広く包装機械・関連機器メーカーに頒布を継続した。

3) 各種情報の発信等

(1) 機関媒体「パッケージ&マシン通信」の発信に関する事業

当会ウェブ機関誌「パッケージ&マシン通信」を毎月2回発行し、わが国の包装機械、関連機器、包装資材等の新製品・新技術情報や当会事業活動、国の施策や機械統計（経済産業省）、貿易統計（財務省）等情報の包装機械業界およびユーザー業界への周知・広報に努めた。

(2) 電子媒体の活用に関する事業

日包工・ジャパンパックスのウェブサイトでの情報発信をはじめ、メールを通じ、関

連省庁からの周知依頼、当会ならびに関連団体の行事等の情報の発信に努めた。また「インターネット製品PRコーナー（日本語・英語・中国語）」の掲載を通じ、会員企業製品の需要喚起に努めた。

6. 人材育成、セミナー・講習会に関する事業

1) 包装学校事業

わが国包装機械メーカーの若手技術者、セールスエンジニアならびにユーザー企業の包装担当者を対象とした第49期包装学校を開講した。本年度は、2022年6月の開講式・オリエンテーションから2023年3月の修了式まで、包装機械設計・パッケージングエンジニア・デジタル制御技術の各講座を通じて、包装機械業界およびユーザー業界の人材育成・高度化に努めた。

昭和49年度の第1期から本年度の第49期までの修了者は5,180名となり、包装機械業界はもとよりユーザー業界からは、包装機械に関する唯一・高度の人材育成機関として極めて高い評価を得ている。

※第49期包装学校の課程別受講生（計115名）

- | | |
|---------------------|-----|
| 1) 包装機械設計技術専門課程 | 60名 |
| 2) パッケージングエンジニア専門課程 | 43名 |
| 3) デジタル制御技術専門課程 | 12名 |
| ・ モーション制御講座 | |

【第1期から第49期までの受講生数、修了者数】

受講者数・修了者数 専門課程名	受講者数（人）		修了者数（人）	
	49期	1～49期計	49期	1～49期計
1. 包装機械設計技術課程	60	3000	60	2888
2. パッケージングエンジニア課程	43	2171	42	2073
3. デジタル制御技術課程	12	309	12	219
合計	115	5480	114	5,180

2) 青年部会

わが国包装機械産業の次代を担う経営幹部育成を目的として、青年部会（部会長：志賀満氏 大森機械工業株式会社 上級執行役員）は、以下の事業実施等を通じて会員相互の研鑽に努めた。

※2022年度定時総会

月 日：2022年4月12日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：2021年度事業報告書案、2022年度役員体制案、2022年度事業計画書案について審議

併 催：講演会

主 題：会社経営について

講 師：古川 雅章 氏 株式会社古川製作所 代表取締役社長

※第80回幹事会

月 日：2022年5月17日（火）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：夏季セミナー、第3回JBCM・JPMA青年部会交流会等事業計画
について討議

※第81回幹事会

月 日：2022年9月 2日（金）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：夏季セミナー、第3回JBCM・JPMA青年部会交流会等事業計画
について討議

※夏季セミナー

月 日：2022年9月15日（木）

会 場：万平ホテル（長野県北佐久郡）／オンライン

主 題：IBMグローバル調査 CEO Studyの紹介

講 師：佐伯 哲雄 氏

日本アイ・ビー・エム株式会社

IBMコンサルティング事業本部 パートナー

※第82回幹事会

月 日：2022年11月9日（水）

会 場：オンライン

内 容：第3回JBCM・JPMA青年部会交流会、新年情報交換会等事業計画
について討議

※第3回JBCM・JPMA青年部会交流会

月 日：2022年11月16日（水）

会 場：KKRホテル東京（東京都千代田区）

内 容：1）初参加者自己紹介

2）業界紹介

田中 利政 氏 協同組合日本製パン製菓機械工業会 青年部会長

志賀 満 氏 一般社団法人日本包装機械工業会 青年部会 部会長

3）情報交換会

※2023年新年情報交換会

月 日：2023年1月10日（火）

会 場：東天紅 上野本店（東京都台東区）

※第83回幹事会

月 日：2023年2月22日（水）

会 場：馬事畜産会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：2022年度事業報告書案、青年部会規定改定案、役員改選案、
定時総会・工場見学会等2023年度事業計画書案について審議

※会員名簿PDF版の運用

3) 各種セミナー・講習会

(1) 厚労省通達「設計技術者に対する機械安全教育」講習会の開催

日本包装機械工業会は、(一社)安全技術普及会、職業能力開発総合大学校と共催で講習会をオンラインにて開催した。

職業能力開発総合大学校(東京都小平市)

① 機械の安全化と国際安全規格編 (2日)

2022年12月8日、9日

② 機械安全におけるリスク低減編 (2日)

2023年1月12日、13日

③ リスクアセスメントの実践と妥当性確認編 (4日)

2023年2月 8日、9日 / 2月13日、14日

④ 電気制御システム編 (2日)

2023年3月2日、3日

(2) IEC 60204-1/JIS B 9960-1対応

「実習で学ぶ制御盤の安全検証試験」講習会の開催

2022年度事業で開催するため、高度ポリテクセンターと協議し、下記日程で開催した。

関東会場 高度ポリテクセンター 2022年11月15日、16日

関西会場 ポリテクセンター関西 2023年2月15日、16日

7. 国の施策に関する事業

1) 中小企業等経営強化法に係る証明書発行に関する事業

当会は2016年7月にスタートした中小企業等経営強化法の証明書発行団体として、2016年8月から証明書の発行を開始し、累計の発行数は9,516通で、その内訳は正会員6,471通、賛助会員888通、非会員2,157通となっており、包装機械業界の販売促進ならびにユーザー業界の新規設備投資促進に努めた。

本年度の証明書発行(819通)の内訳は次の通りである。

正会員 547通(証明書発行手数料は1通に付 2,000円)

賛助会員 83通(同上)

非会員 189通(証明書発行手数料は1通に付 10,000円)

8. その他関連事業

1) 包装機械会館の運営に関する事業

株式会社日本包装リースならびに株式会社包装システムと協調し、6階部分の賃貸、2階会議室の貸し出しをはじめ包装機械会館の運営、保守保全に努めた。

2) 会員企業の販売促進、経営安定化に関する事業

株式会社日本包装リースとの協調によるリース販売の促進、事業承継サポートプログラムの利用促進、ならびに本年度より新たに会員向けサービスが拡充された、出資業務・アドバイザー業務などの利用促進に努めた。また株式会社包装システムと協調し、PL保険・包装機械総合保険への団体加入の促進に努めた。

(1) 株式会社日本包装リースとの連携

※事業承継サポートセミナー

月 日：2023年2月15日（水）

会 場：包装機械会館（東京都中央区）／オンライン

内 容：①株式会社日本包装リースのご紹介と会員様向け事業承継に

関する支援サービス概要

株式会社日本包装リース 代表取締役社長 小川 毅 氏

②事業承継の最近の動きと手法等

EY 税理法人 BTS, プライベート・クライアント・サービスグループ

アソシエートパートナー 税理士 藤野 高充 氏

③DBJ による事業承継ソリューションのご紹介

株式会社日本政策投資銀行

企業金融第一部長 松野 孝彦 氏

④質疑応答

3) 福利厚生に関する事業

全国印刷製本包装機械企業年金基金および印刷製本包装機械健康保険組合の事業に積極的に協力し、加入者の福利厚生事業の充実に努めた。

4) 関連産業との連携

日本製パン製菓機械工業会、日本粉体工業技術協会、日本化粧品工業連合会、日本冷凍食品協会をはじめ包装関連産業、食品関連産業、製パン・製菓産業、印刷機械産業、電気・電子機器産業などの関連機関との産業連携を推進し、包装機械業界の発展に努めた。

9. 会員の現況

2023年3月31日現在の会員数は正会員142社、賛助会員118社、合計260社となっている。2022年度の入会、退会の状況は次の通りである。

1) 入 会

<正会員 2社>

株式会社エムエムディー、ユニバーサル・フードマシン株式会社

<賛助会員 4社>

深瀬商事株式会社、フェスト株式会社、株式会社日本HP、

大塚包装工業株式会社

2) 退 会

<正会員>

なし

<賛助会員 1社>

株式会社ホニック

3) 会員登録の変更（カッコ内は旧登録名）

興和オプトロニクス株式会社（興和株式会社）

カナエ株式会社（カナエエンジニアリング株式会社）

株式会社イムラ（株式会社イムラ封筒）